

設立趣旨書

1 趣旨

今、全国の外国籍住民の数はおよそ300万人、横浜市には11万人を超す人々が住んでいます。そんな中、当会に寄せられる相談は、「賃金未払い」「解雇」「労働災害」などの労働関係から、「離婚」「DV」「借金」「住宅」「子どもの教育」「病気」などの生活に関する相談まで、多岐にわたっており、その背景には、「貧困」「言葉の壁」「日本人の無理解と差別意識」「不平等で不十分な制度」などの様々な要因が存在しています。

当会は、横浜市寿町で結成されました。寿町は、日本の3大寄場の一つとして、「出稼ぎ労働者の町」・「日雇い労働者の町」として知られています。また、この町では、年末年始にかけて、「越年・越冬闘争」として、「一人の餓死、凍死者も出さな！」というスローガンのもと、炊き出しやパトロール、医療相談の活動が行われています。その、「越年・越冬闘争」の本部に、一人のフィリピン人が訪ねてきて「賃金未払いがあり、生活に困っている」という相談があり、それをきっかけに、1987年、「寿・日雇い労働者組合」の呼びかけで結成されたのが、「寿・外国人出稼ぎ労働者と連帯する会」（通称・カラバオの会）です。「カラバオ」とは、フィリピンの言葉（タガログ語）で労働の象徴の「水牛」という意味です。

カラバオの会が結成されてから今日まで、外国籍住民から寄せられる多様な相談に、私たちは真摯に向き合い、その解決に向けた取組を会の中心軸に据えて活動してきました。また、1994年からは「日本語講座」として日本語教育にも取り組み始め、近年では海外にルーツのある子どもたちの学習支援も行っています。さらに、他団体とのネットワークを進めると同時に外国籍住民のコミュニティーづくりや広報活動も推し進めてきています。

少し大袈裟ですが、日本国憲法・第十四条では「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」とあります。300万人の外国籍住民が共に生活している現在、日本国籍の有無や在留資格の違いによって「差別」が認められるような、不平等な社会であってはならないと思います。私たちは、この条文を「本邦に住むすべての人々は、法の下に平等であって～」という理解のもとに、外国籍住民と「多様性を共に認め合う社会」になるよう活動していきたいと考えています。

そのような社会を実現させるために、外国籍住民・外国に繋がる子どもたちなどに対して、「労働・生活相談活動」・「日本語教室および学習支援活動」・「人権擁護のための活動および提言活動」・「共生社会に向けた交流・啓発活動」などの活動を行っていきたいと考えています。

私たち「カラバオの会」は、市民運動として35年以上の活動実績がありつつも、更なる高みを目指して活動していくために、「専従体制の強化」・「財政の健全化」・「社会的信用の獲得」が不可欠であると考えました。その実現に向け「法人格」を取得し、「安定して活動に専念できるスタッフの確保」、「目標に向けた事業活動の活性化」、社会からの「信用・信

頼」を得ることを目指していきます。外国人の人権・生活を守るという目的へ向け一層力強く活動していくために、カラバオの会は、特定非営利活動法人に認証されることで、新たな一歩を踏み出していきます。

2024年 1月 7日

特定非営利活動法人 カラバオの会
設立代表者 八重樫 宣仁